



## 社長年頭挨拶

今年の正月は、クリスマスの積雪や年末の寒波も多少やわらぎ日差しの暖かさも感じられた穏やかな正月だったと思います。また、既に3年目にもなるコロナ感染の状況としては、国からの行動制限も解除された中、帰省や初詣などはコロナ前に近い水準の出があり、海外旅行なども一部回復してきているようです。それぞれ皆さんも良い正月を過ごされたことと思います。

さて、2022年を振り返ると、『変動・混乱』の年であったと思います。2月24日にロシアがウクライナに侵攻を開始し、間もなく1年近くが経過しようとしています。一番残念なのは尊い命が毎日のように失われることですが、その他の影響として当事国のみならず、世界的な資源高・エネルギーコストの上昇含め物価高や、インフレを抑え込むための欧米での利上げ策に伴う為替の円安（32年ぶりの151円/ドル水準）が生まれました。自動車業界では徐々に回復はしてきていますが、依然として半導体を始めとした部品供給不足によるサプライチェーンの混乱が継続しています。鉄鋼業界も、経済混乱の影響を受け2022年の粗鋼生産量は前年比▲7.4%の8,923万トン、2023年も日本国内の需要回復は見込まれるものの、世界経済の減速の影響により同水準又は微増の粗鋼生産が見込まれています。

さて、昨年の当社の事業環境を振り返ると、自動車生産のマクロ感としては回復基調ではあるものの、春先の中国のロックダウンの影響による生産減や慢性的な半導体不足により、予定通りの挽回生産には到達できない状況が続いています。（販売数量12月：13,099t 1月見込：11,880t）

これからの自動車生産の回復の見通しとしては、半導体については徐々に回復することが期待されるものの、金融引き締めによる世界的な景気減速が課題となります。また、事業環境として原燃料・資材の高騰の問題は引き続き厳しい状況であり、世界的なカーボンニュートラルに対する取り組みは自動車の在り方も少しずつ変化させてきています。

かかる中、2023年は、昨年6月よりスタートしました中期経営計画CIF30（Challenge our Innovative Future 2030）に沿って、『より強い会社』となるため具体的な行動と成果に拘って行きたいと思えます。以下3点の基本的な方針はこれまでと変わりませんが、新たな取り組みもあるので説明します。



### ① モノづくり力の向上

原点である【安全に、良いものを、安く】は引き続きしっかりと継続したうえで、更に強い宮崎精鋼となる取り組みを実行していきましょう。昨年もモノづくりの原点に立ち返って、標準作業・設備点検を守れば安全に良品が確実にできるのか、再点検してもらいたいとお話しました。これは各職場で『品質の高い作業』『安全な作業』『やりやすい姿勢で効率よく作業』が出来ること、そして、各作業員・職員が『手順の意味、重要性を理解している』ことを意味します。今一度この観点に立ち返って考えてみて欲しいと思えます。また、OJTソリューションズの取組も3年目に突入します。しっかりと我々の実力が向上していくよう皆で取り組みをお願いします。また、先週から稼働がスタートしているミヤザキセイコウ・デ・メヒコについては、昨年後半には月間1,000tを超す生産を記録した状況下、製造実力の向上が急務となっていますので、関係する皆さんにはリモートとリアル両面でサポートをお願いしたいと思えます。

### ② SDGsの推進

事業を通じて、環境活動のみならず、社会的にも認められる企業を目指します。カーボンニュートラルについても、より活動を具体化して取り組んでいきます。また、会社の事業をしっかりと継続するための投資は続けて、今後、基幹システムの再構築や各工場での最適生産に向けた投資は確実に実行していきたく思っています。

### ③ 皆さんが積極的に主体性を持って行動する

皆さん一人ひとりが、問題意識を持って自らが積極的に提案し、実行することを実践してもらいたいと思えます。また、皆さん、それぞれの持ち場・立場でどのように行動すると組織が機能するのか、良い職場になるのかを常に念頭に行動してもらいたいと思えます。管理職の方は特に目配り・気配り・心配りの実践をお願いします。

最後になりますが、より強い宮崎精鋼を目指して、皆さんと共に実りの多い一年にしていきたく思っています。で宜しくお願ひします。

